

道徳 だより

令和5(2023)年10月19日

国立市立国立第七小学校

校長 小畑 行広

道徳担当 野間 大佑

第3号

運動会も無事に終わり、いつもの日常が戻ってきました。秋の心地よさを感じながら、各学級での学習にじっくりと取り組んでいます。今回は、先月末に6年1組で行った第3回研究授業についてお伝えします。

研究授業③

◆高学年分科会 6年1組 鈴木康之 主任教諭

日 時:9月27日(水)5校時 主題名:自分が目指すところまで(A 希望と勇気、努力と強い意志)

ねらい:目標を立て、希望や夢に向かって、諦めずに努力しようとする心情を育てる。

教材名:「心をつなぐ音色～ピアニスト辻井伸行」(出典:「新訂 新しい道徳6」東京書籍)

今回取り扱った教材は、世界的に活躍する盲目のピアニスト辻井伸行さんの話です。辻井さんが、自分の夢や目標に向かって困難があっても努力し続ける姿を通して、強い意志をもって努力することの大切さについて考えました。

今回の授業では、まずはじめに、「将来の夢や目標はもっていますか。」というアンケート結果を示しました。道徳の授業では、その授業で考えることを自分事として捉えられるようにするために、児童へのアンケートを行い、その結果から問題意識をもたせることがあります。「なりたい自分になるために大切なことは何かについて考えよう」という学習課題を立て、教材の主人公である辻井さん(本文では「のぶ君」)について知るために、演奏の動画を視聴しました。その後、写真などをスライドで表示しながら教材を読みました。子供たちは、辻井さんのすごいと思うことを話しながら、辻井さんと自分を比べて、自分たちに必要なことや似ていることなどをグループで話し合いました。みんな生き生きと話し合っていたのが印象的でした。授業の最後には、考えてきたことを振り返って、今の自分と未来の自分を比べながら「なりたい自分」になるために大切なことを考えました。6年生の多くの子が、しっかりと希望をもっていることが分かりました。



授業後の教員による協議会では、よりよい授業にするために、様々な意見が交わされ、とても有意義な協議をすることができました。最後に、年間講師の石丸憲一先生からいただいたご指導の一部を紹介します。

○スライドを上手く活用しながら教材を提示することができていた。それによって、子供たちが教材の世界に没入できていた。

○学級の雰囲気良く、子供たち同士が自分の考えを安心して伝え合っていた。

○努力の大切さを考えることはできていた。「努力をすればできるようになる」ということは分かっているが、それがなかなかできない自分がいるということについて、更に踏み込めるような授業にすることで、子供たちの心はザワつく。そういった授業を目指していきたい。

授業全体を通して、「なりたい自分」と「今の自分」を比べて考えることで、一つの成功者の話ではなく、自分にも関係のあることだと子供たちに感じさせることができていました。授業を見ていて、子供たちに関わる大人の一人として、6年生の夢を応援したくなりました。